

山に親しみ山に想う(19)

一 韓国内蔵山国立公園紀行一

〈文・写真〉 岡本

2002年11月30日から12月1日にかけて、1泊2日で韓国全羅南北道の境にある内蔵山(ネジャンサン、標高763.2m)への山行を行った。山は高くないし麓にある内蔵寺にも取り立てていふべきものもないが、秋の紅葉は有名でここを凌ぐ紅葉の名所はない。そんな山を紅葉時期を外して登ったのだが、外したために山頂に登れなかったという山行であった。2002年当時の韓国有名観光地の点描になるだろうか。

以下の本文は、山行より帰宅した夜に留守宅に送ったファックス信に若干の添削をしたものである。

朝8時20分に家を出た。湯沸かしポットのコードを抜いてきたけれど、直ぐに気になりだした。抜いた記憶はあるが、もしかという不安を拭いきれず、また戻って再出発。地下鉄4号線二村駅で乗り梨水駅で7号線に乗り換えて、高速ターミナル駅で下車する。ターミナルは、韓国西部方面行きの湖南ターミナルと東部方面行きの嶺南ターミナルに分かれているが、地下鉄駅を降り案内板の矢印通りに進んでいると、途中で矢印がなくなり、目的の湖南でなく嶺南ターミナルに出てしまう。通行人に尋ねてようやく湖南ターミナルに着く。

10時発井邑行き直行バスに乗る(ソウル・井邑間266キロ、料金17400ウオン=約1700円)。井邑行きバスデポット(待合所)には、行先違いの光州、益山行きバスが入って来ており、井邑行きはようやく10時2分前に入ってきた。係の者に「このデポットは井邑用なのに5分前の今、井邑行きでなく光州行きが入っているのはどういうことか。」と、問うても「まあまあ、待ってくれ。」というのみ。韓国人客7、8人が待っていたが、何も言わない。こんな事は日常茶飯事だから殊更文句を言うことではないということだろうか。韓国文化の鷹揚さと受け取ろうか。自分の感覚では、10時発なのに9時55分になっても井邑行きが入っておらず、方向違いの光州行きが入ってきているのは解せない。係の者は説明せず、待機の乗客も説明を求めない。まだ、自分は韓国を理解してないようだ。

朝食は、食パン1枚とお茶のみだったので、ターミナルでペットボトルのお茶とアンパン2個を買って車中で食べた。天気は上々、快晴に近い。窓からの陽射しが暖かい。右の頬が熱いくらいだ。外の景色は冬枯れ、樹葉は落ちて荒涼とした感じ。

13時20分に井邑高速バスターミナルに到着。井邑から内蔵山行きの直行バス(市外バス)に乗る予定。高速バスターミナルの横に市外バスターミナルが続いており、14時15分発内蔵山行きの切符(900ウオン)を買う。30分以上の待ち時間があるので、ターミナル傍の食堂でスジェビ(すいとん、だんご汁)を食べる。化学調味料がたっぷり入った味。14時15分になってもバスが来なかったので、切符売り場の売子にバスが来なかったというと、900ウオンを返してくれた上で、「市外バスでなく市内バス71番に乗って行け、少しあっちに行けば大通りで乗れる。」と言う。ターミナルを出て直ぐ二人連れの女学生に市内バスの乗り場を尋ねると、「この道を行き、大通りで右に曲がり薬局前で乗れる。」と教えてくれた。そのバス停はターミナルから徒歩3分程の距離にあり、20分毎に内蔵山行きがある。結局、14時33分の内蔵山行き71番

(850 ウオン)に乗った。車窓から街の景色を見る限り、街の規模や感じは、太白市、寧越邑、丹陽邑とよく似ており、地方小都市の典型的な雰囲気がある。

内蔵山行きバスは、ルート 29 から 49 に道を取り、15 時 10 分頃に内蔵山終点に到着。終点は門前町の土産物屋が並ぶ大通りのようなところである。俗離山に行った際に、降りた終点のバス停付近と同じような印象だ。同じような品揃えの土産物屋、同じメニューを揃えた代わり映えのしない食堂、しかもナイトクラブやカラオケがある。自家用車時代の幕開けを反映してモーテルが旅館(荘)を凌いで幅をきかしている。この辺りには民泊はないので、来る際にバスの車窓から見つけていた数軒の民泊の内、ソウル民泊に寄ってみると、主人は「自分の民泊は紅葉シーズンの秋だけで冬は営業してない。」と言って、友人が営むポリン荘民泊を勧めてくれた。訪ねてみると、そこは全く荒れ果てて廃屋のようで人影が見えない。食器が洗いもせずに



道端に放ってある。来客を告げて戸を開けると、中は真っ暗闇、誰も対応に出ない。止めた。内蔵山観光ホテルもあり、いくつもの派手な外観のモーテルがあるが、内蔵山終点での宿泊を止めて井邑の旅館に泊まり早朝のバスで登山口に来ることにした。

内蔵山バス終点の町

16 時 45 分のバスで又井邑に戻った。バス停近くのセウン荘に宿をとった(1泊 25000 ウオン)。夕食は、「ミニストップ」で太巻きとハンバーガーとペットボトルのお茶を買い、そこで食べた。

翌日曜の朝、6 時前に起床、饅頭と牛乳で朝食に代えた。まだ寝ていた主人に起きてもらって戸を開けてもらった。外は未だ暗い。バス停に 6 時 45 に着いたが、朝一番のバスを 5 分の差で逃した。この時間帯はタクシーが引切り無しに通り、バス待ちしている者の前に止まり客引きをする。7 時 10 分の二番車(71 番内蔵山行き)に乗車。登山姿の中年夫妻も同乗。車窓には、冬枯れの茶色に霜の白さが織りなす荒涼とした田畑の風景が展開。7 時 30 分に内蔵山終点に到着した。早い。身支度し 7 時 40 分に入山切符売場に着く。入山料は 2600 ウオン。



8 時 10 分に展望台行きのケーブルカー乗り場に着くが、早過ぎて動いていない。8 時 25 分に内蔵寺のイルチュムン(寺の伽藍の最外郭にある門)に到着。その案内文には、「百濟武王 36 年(636 年)に靈隱祖師が靈隱寺として建立、儒教重視の李朝の廃寺令により 1539 年に一旦焼却、1567 年希黙大師が重創、その後内蔵寺に改称、1951 年 1 月朝鮮戦争で焼失、1958 年重建、

1971年寺域が国立公園に指定」とある。時代に弄ばれた寺の閼歴。伽藍自体は小規模で重なる焼失のため国宝もない。観光客は寺ではなく寺域の秋の紅葉を觀に訪れる。今回行く予定にしていた白羊寺は伽藍も立派で寺格も高い。

8時40分に寺を出る。寺の門の左右に案内板があり、右の物はプルチュル峰方面の、左の物は金仙溪谷方面の案内である。ガイドブック等の情報でルートが統制され、内蔵山の最高峰神仙峰(標高763.2m)が統制区域内であることは既に知っていたが、もしや行けるかもしれないと思い、境内を掃除している墨染服のおばさんに尋ねると、金仙溪谷方面に行く途中に案内板があると言う。案の定、200m程先に在った。神仙峰2.8km、金仙瀑布1.7km、カチ峰2.2km、展望台0.8km(ケーブルカー終点)とある。右方向への神仙峰、金仙瀑布ルートに道をとる。約1km進んだところで、神仙峰と金仙瀑布の分岐点に出る。神仙峰方向へと溪流を渡ったところ、その先は竹矢来の塙で塞がれており、「自然公園法第28条により、山火事予防のため出入を禁じる。無断入山者は同法第38条により処罰される。国立公園管理公団内蔵山管理事務所長 白」とある(注)。止むを得ず引き返し、金仙瀑布へのルートに変えたが、瀑布への溪流は水が枯れて殆ど流れていない。神仙門を通り過ぎたあたりの案内板には、瀑布で水浴する天女が他人に岩の上から覗き見されないように、この辺りの岩は油気を含み滑り易くなっているとの伝説が書かれている。上流に行っても水はなく岩がゴロゴロしているだけ、瀑布らしき断崖にも水がないので引き返した。天女の水浴どころか、荒涼たる岩の連なり。自然の荒廃が進んでいるのだ。



10時に引き返し、10時40分頃内蔵寺の門前に着き、土産物店で内蔵山国立公園の地図が描かれたバンダナを買った(1枚2000ウオン)。

今日は快晴に近い好天である。山中を歩いていた時は樹陰ばかりだったが、平地に降りてくると陽が眩しいくらいだ。

内蔵山遠景と天下大將軍のポール

ー内蔵山 寺前の柿 なお赤く 小春日和の 陽に照らされてー

土産物店前の柿、渋柿が赤い花を散りばめたように実っている。少し行くと、ケーブルカーがあり、その傍に米国風のビクターズ センター(韓国語では探訪案内所)がある。入口に備置された訪問者芳名録に請われて名前と職業を記入した。すると、背後からおじさんが「日本の方ですか」と問い掛けてきた。そうですが云々と韓国語で答える。すると、おじさんは極めて流暢な日本語で館内の展示物を説明してくれた。尋ねると、熊本の旧制五高、東京帝大を出て、戦後40年間高校の校長をしていたという。今でも同窓会とか何やらで日本によく行くという。78歳の隠居の身、ボランティアとして日本語の通訳案内をしている由。もう一人の年配者は、英語のボランティアだという。説明の中で、「内蔵山の山域にあるユズリ葉と榎木の群生地は植生

分布の北限になっており、その意味で天然記念物に指定されていること、黒鷲、大鷲が棲んでいたが、現在では姿を見せなくなったこと」などを教えてもらった。(留守宅へ)ところで、ユズリ葉ってどんな木なの、知ってるか？調べてファックス頼む。おじさんは別れがたい素振りだったので、春にまた白羊寺まで歩きに来るのでその時会いましょうと言って別れた。おじさんの名前は、殷 oo(住所は井邑市 000, 電話 000)だ。

12時にバス停に到着。12時20分に乗車して、50分に井邑のバスターミナルに到着。2時10分発東ソウルバスターミナル行きに乗車する(12400 ウオン)。昼食は2時10分までの待ち時間に摂ろうとして市内を歩いたが、良さそうな店が無いので、結局「ミニストップ」というコンビニに入って、韓国太巻、ハンバーグ、コーヒーをそこで食べた。本当に食堂の無い街である。他方、タバコ(喫茶店)は多い。

日曜の午後からの高速道路は渋滞し、6時15分に東ソウルターミナルに到着。家に着いたのは7時半。今回の山ゆきは、統制のため内蔵山山頂に登れず、カメラの電池きれと散々であったが、殷おじさんとの約束もあり、来春に再度行くことになるだろう(事情により、約束を果たせず)。

(注)ソウル傍の北漢山国立公園ではルートの統制区域はなく、登山道入口でライター、タバコなどを預ける箱が置いてあった。済州島では山火事監視小屋があるのみで、山火事予防のためのルートの統制区域はなかった。

(了)